

公益財団法人

# 琵琶湖・淀川水質保全機構のあらまし



公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構  
Lake Biwa - Yodo River Water Quality Preservation Organization

美しい自然と豊かな水に恵まれた琵琶湖・淀川は、古くから私たちに癒しと潤いをもたらし、生活や経済活動の糧として計り知れない恩恵を与え続けて来ています。

しかしながら、社会の急速な発展やライフスタイルの変化によりその水質が悪化し、飲み水や自然環境などいろいろな問題が生じてきました。

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構は、琵琶湖・淀川水系の水質保全に関する課題を住民や行政と共に一体となって解決していく流域唯一の機関として、潤いのある流域社会を形成する役割を担うために設立されました。

私どもは、平成5年の設立以来水質保全技術に関する調査研究や流域の水質保全のための広報啓発などに取り組んできました。湖沼の富栄養化問題など一部の課題は改善されてきましたが、微量有害化学物質など健康リスクに関わるものや近年の地球温暖化のような環境変化が水質に与える影響など、新たな水質保全に関する課題やニーズが生まれております。

こうした中、平成25年4月からは公益財団法人として、琵琶湖・淀川流域における水質保全に関する調査研究・啓発・活動支援事業などを行うとともに、引き続きキャッチフレーズとして「飲める水 遊べる水辺 次世代に」を掲げ、「遊んだり泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を実現するために取り組んでいきます。

飲める水 遊べる水辺 次世代に

# 水質保全に関する調査・研究

流域の水質保全を進める上では、とくに、関係機関からのニーズがある課題、省庁間や府縣市間を超えた広域的な課題、または、単独の府縣市では解決しづらい水質問題、共同連携による取り組みが効率的な課題などがあります。

当機構では、このような各機関が個別に取り組むことが困難な課題や、各機関間を調整することで効果的・効率的に解決へと結びつく課題に対して調査研究を進めることを基本としています。そのため、調査研究の進め方では、可能な限り課題を同じくする関係機関や研究機関等と連携して実施します。

また、これらの研究を通して、流域が一体となって水質保全を推進するための必要な検討会やシンポジウム、さらに情報収集および情報発信にも積極的に取り組んでいます。



## Ⅰ 総合的な調査や水質管理のための調査研究

重点的な研究課題は、関係府縣市などのアンケート結果や新たな水質問題・ニーズ、社会動向、さらにこれまでの調査研究実績を踏まえて3本の柱と7つのテーマに基づき設定しています。

### 生活環境の保全・向上

- 流入負荷削減対策
- 難分解性有機物質問題
- 閉鎖性水域の富栄養化現象・底質改善対策

### 安全で安心な水質の確保

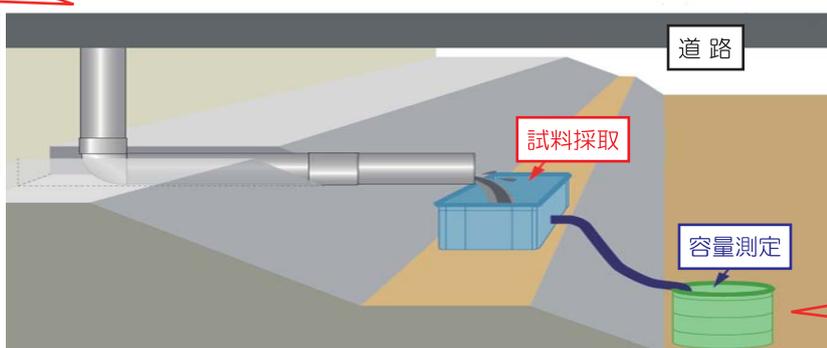
- 水系病原性微生物問題
- 微量有害化学物質問題

### 環境変化への対応

- 近年の気候変動に伴う水質事象への影響
- 水質や監視・管理のための連携

### 【調査研究実施例】

面源負荷削減対策に関する路面排水調査



沈水植物カラム実験



土壌浸透浄化実験



底層への酸素供給実験



## II 水質課題に関する検討委員会やシンポジウム等の実施

琵琶湖・淀川流域の水環境に関するその時々課題について調査研究を行っています。

調査研究の実施にあたっては、当機構の学術委員会を中心とした助言等を踏まえながら検討を進めています。

<これまでの主な実施内容>

- 平成6年濁水琵琶湖・淀川水環境影響調査（平成6年度）
- 琵琶湖の総合的な保全のための計画調査（平成9～10年度）
- 琵琶湖・淀川面源負荷削減対策調査（平成10～11年度）
- 琵琶湖・淀川湖沼富栄養化対策調査（平成10～11年度）
- 琵琶湖・淀川微量有害物質・病原性微生物の現状と対策（平成12～14年度）
- 20世紀における琵琶湖・淀川水系が歩んできた道のり  
—21世紀の新たな水質保全に向けて—（平成13～14年度）



琵琶湖・淀川流域における検討内容や水環境保全に関する話題等を講習会やシンポジウムを通じて広く提供しています。

<これまでの主な実施内容>

- 設立記念シンポジウム 「どうすれば琵琶湖・淀川はきれいになるか」（平成5年度）
- リレー講演会 「琵琶湖・淀川を美しく変える一提言」（平成9年度）
- シンポジウム 「琵琶湖・淀川の変化を診る」（平成12年度）
- 設立10周年記念シンポジウム「琵琶湖・淀川流域の水環境—交流から連携へ—」（平成15年度）
- シンポジウム 「琵琶湖・淀川の水環境を考える」（平成18年度）
- 琵琶湖・淀川水質浄化研究所 技術研究発表会（平成10・13・15・17・19年度）
- シンポジウム 「地球温暖化による気候変動の水環境への影響と対策」（平成21年度）



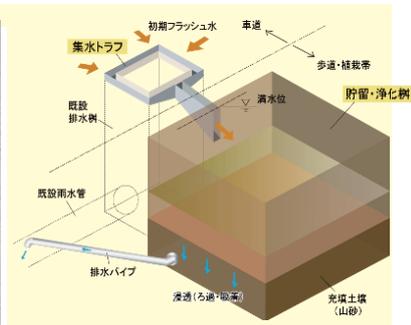
シンポジウムの開催状況  
「地球温暖化による気候変動の水環境への影響と対策」（平成21年度）

これまでの調査研究成果から特許を取得しました。

### FF クリーナーの特許取得

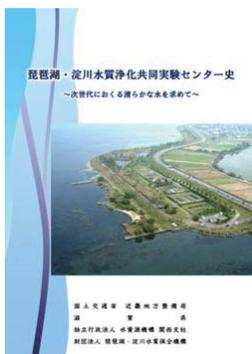
面源負荷削減対策として滋賀県、東レエンジニアリング株式会社および財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の三者で共同開発した道路排水浄化システム（路面排水初期フラッシュ水浄化装置）は、平成18年2月に特許を取得しています。

[特許第3768186号：路面排水の処理方法及び処理設備]



## III 琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（Biyoセンター）での取り組み

Biyoセンターは、琵琶湖南湖に流入する葉山川の河口に国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、独立行政法人水資源機構および財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構が共同で設置した実験施設です。これまで「植生浄化」と「土壌浸透浄化」といった自然を活用した浄化手法を柱として、新しい技術や新しい素材を水質浄化に応用する実験など幅広く行ってきました。平成23年度にはBiyoセンターにおける14年間の成果をまとめた「琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター史」を発行しました。



## IV 国際的な情報・技術交流

諸外国でも富栄養化や有害化学物質等、琵琶湖・淀川流域と同様の問題を抱え、水環境改善対策や水質浄化技術の研究等様々な取り組みがなされています。財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構では、各国の水質保全機関との間に情報・技術交流の協定を交わし、琵琶湖・淀川流域の水質保全に役立てています。平成20年度には「ライン川・レマン湖水質保全調査団」を派遣し、水質改善策の国際的取り組みや近年の課題について情報収集した成果をとりまとめています。

### <情報・技術交流の協定を締結している機関>

- 国際ライン汚染防止委員会 (ICPR コブレントツ：ドイツ)
  - International Commission for the Protection of the Rhine
- オハイオ川流域水質保全委員会 (ORSANGO シンシナティ：アメリカ)
  - Ohio River Valley Water Sanitation Commission
- バラトン連合 (シオフォク：ハンガリー)
  - Balaton Association
- 国際ボーデン湖水質保護委員会 (IGKB ランゲナーゲン：ドイツ)
  - Internationale Gewässerschutz Kommission für den Bodensee
- レマン湖水質保全国際委員会 (CIPEL ニヨン：スイス)
  - Commission Internationale pour la Protection des Eaux du Léman など

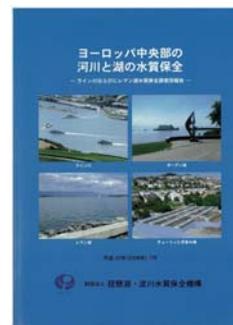
また、国際学会における発表や国際学術雑誌での論文にも積極的に取り組み、これらを通じて各国の研究者との研究連携や海外からの視察団の受入れ等、国際的な見地からの技術交流や技術支援等を行っています。

### <その他の国際的な情報・技術交流>

- IWA (International Water Association) 会議での発表
- 中国・イラク等の海外からの技術視察
- JICA の環境保全のための研修 など



バラトン連合設立100周年記念事業へ参加



ヨーロッパ中央部の河川と湖の水質保全  
(ライン川・レマン湖水質保全調査団報告)



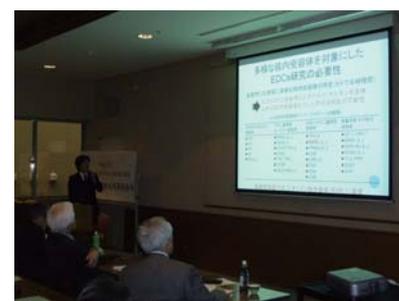
北京市水務局からの見学状況

## V 水質保全研究助成

水質保全研究助成は地球温暖化や微量有害物質の問題など、琵琶湖・淀川流域における水質保全の先駆的な課題を解決することを目的に、琵琶湖・淀川水質保全機構が設定する研究テーマに沿った研究に対し助成をするもので、平成21年度より実施しています。また、研究成果については、成果報告会を開催し、幅広く成果の共有を図っています。

### これまでの募集テーマ

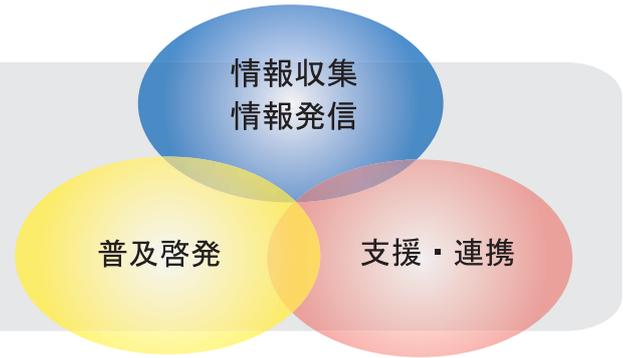
- 琵琶湖・淀川流域の難分解性有機物の特性把握に関する研究
- 琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害汚染物質の挙動把握および分析手法の確立等に関する研究
- 琵琶湖・淀川流域における病原性微生物の挙動把握と制御、削減に関する研究
- 地球温暖化に伴う水道原水水質問題に関する研究
- 琵琶湖・淀川流域における大気降下物の水質に及ぼす影響に関する研究
- 流域における糞便性大腸菌群数の挙動に関する研究
- 水系水質管理のための有機性汚濁指標やそのリスク評価に関する研究



成果報告会開催状況

# 水質保全に関する広報・啓発

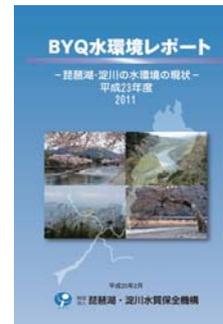
琵琶湖・淀川流域の水質保全を住民や行政と共に一体となって解決していくため、広報・啓発として、「情報収集・発信」・「流域市民の水質保全活動への普及啓発」・「流域活動団体支援・連携」を行っています。



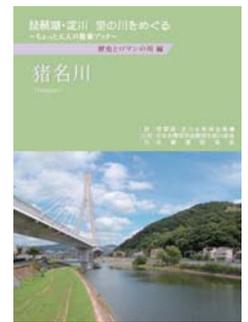
## I 情報収集・情報発信

### ■ BYQ 水環境レポートを発行しています。

「BYQ 水環境レポート」は琵琶湖・淀川流域の概要、水利用、水質、琵琶湖・淀川水質浄化研究所の成果報告、流域圏の関係データをまとめた唯一の資料として、機構発足時から毎年発行しています。また、当機構のホームページで概要を掲載しています。



BYQ 水環境レポート



琵琶湖・淀川里の川をめぐる

### ■ 水情報冊子（琵琶湖・淀川 里の川をめぐる）を発行しています。

「琵琶湖・淀川 里の川をめぐる～ちょっと大人の散策ブック～」は琵琶湖・淀川流域内の河川について、水に関する歴史や見所を中心に紹介する情報誌です。この冊子は流域に住む方々に琵琶湖・淀川流域の河川への親しみを感じ、流域を散策してもらうことを目的に、企画編集・発行しています。

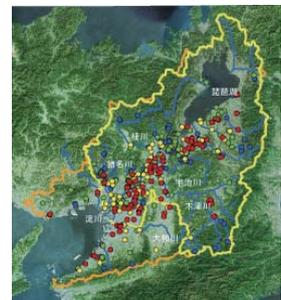
## II 流域市民の水質保全活動への普及啓発

### ■ WAQU<sup>2</sup> 調査隊による川の水質調査を行っています。

WAQU<sup>2</sup>（わくわく）調査隊は身近な湖沼・川の水質を流域住民自らが調べることで水質に興味を持ち、水環境について考えてもらうきっかけづくりを目指して、平成 16 年より実施しています。川の汚れが簡単に測定できるキット（バックテスト）を使って4項目（COD、アンモニア性窒素、硝酸態窒素、リン酸）の水質調査を実施し、幅広い年代の方々に隊員として参加していただいています。



2004年度第2回調査



2010年度第2回調査

〔COD 値分布マップ〕

### ■ 流域市民を対象とした出前講座などを行っています。

流域市民の方々を対象に、当機構の調査研究の成果等を分かりやすく解説する出前講座を実施しています。

＜これまでの主な実施状況＞

- 豊中市「秋の公民館講座」
- 尼崎市商工会議所
- 国土交通省「いがうえの大戸川生活排水浄化パートナー協議会」
- 上野東ロータリークラブ「創立 25 周年記念事業」など

## III 流域活動団体支援・連携

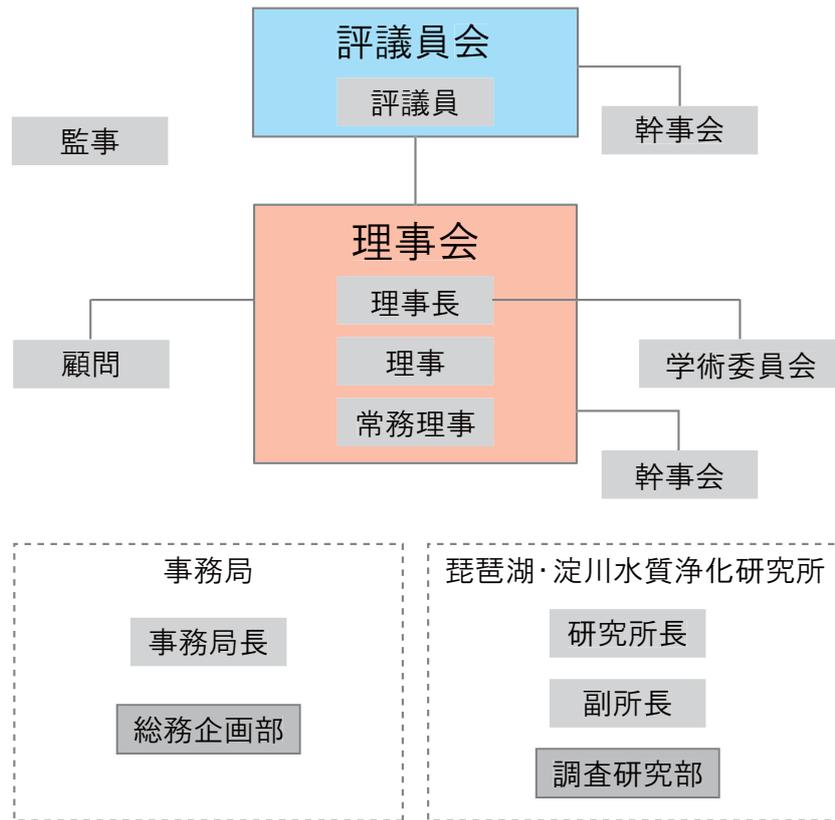
### ■ BY（びーわい）スタンプラリーを行っています。

BY スタンプラリーは琵琶湖・淀川流域で水環境改善活動に取り組んでいる NPO などの市民団体の活動への参加や水関係施設の見学によりスタンプを集めることを通して、市民の水環境改善活動への参加のきっかけづくりをするとともに、団体間のコミュニケーションと連帯感の向上を目指しています。



〔BY スタンプラリー協賛グループマップ〕

# 公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の概要



## 設立趣旨

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構は、琵琶湖・淀川の水を利用する関係自治体が一体となって水質保全対策に共同で取り組むため、平成5年に建設大臣の許可を得て設立された公益法人で、流域の2府4県3政令市および民間126社等の出捐金の運用収入および事業趣旨に賛同する賛助会員の会費収入等により、水質浄化のための様々な事業活動を推進しています。

## 沿革

平成5年8月10日 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構設立発起人会  
 平成5年8月18日 建設大臣へ設立許可申請  
 平成5年9月28日 建設大臣設立許可  
 平成24年3月23日 内閣総理大臣へ公益財団法人への移行認定申請  
 平成25年3月19日 内閣総理大臣公益財団法人移行認定許可  
 平成25年4月1日 公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構に移行

## 出捐金

30億円（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・京都市・大阪市・神戸市ほかより20億円、民間〔126社〕より10億円）

## 目的

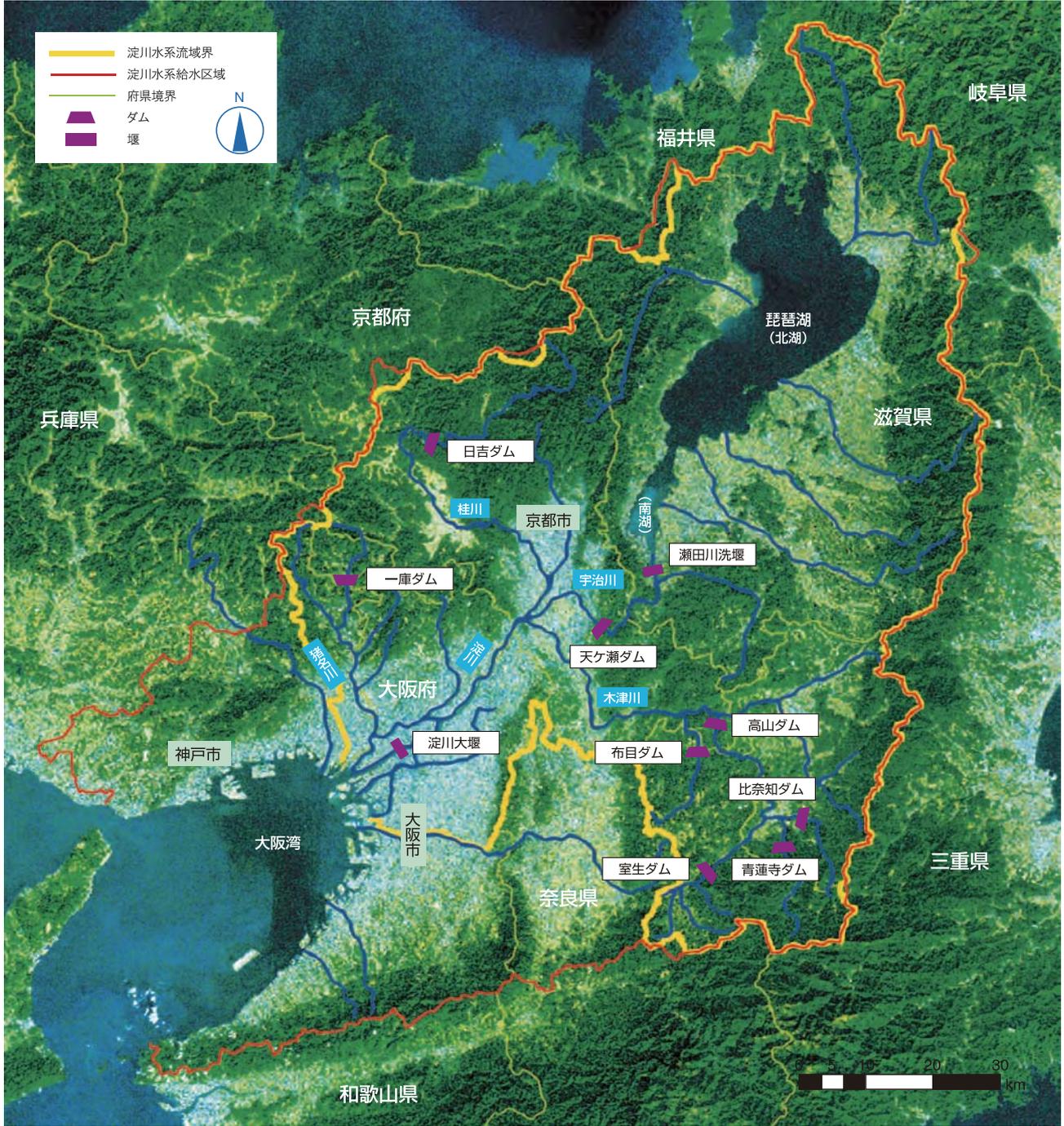
淀川水系における河川・湖沼水の水質保全に関する調査研究や啓発等を行うことにより、淀川水系の水質改善に寄与し、もって潤いのある地域社会の形成と、関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

## 事業

公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構は、目的を達成するために、次の事業を行っています。

- (1) 淀川水系における水質保全に関する調査研究事業
- (2) 淀川水系における水質保全に関する啓発事業
- (3) 淀川水系における水質保全のための活動支援事業
- (4) 第1号に掲げる事業に関する業務の受託
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

# 琵琶湖・淀川流域図



衛星画像：株式会社ジオサイエンス

## 琵琶湖・淀川のすがた

- 琵琶湖・淀川の流域面積：8,240km<sup>2</sup>
- 琵琶湖 面積：670km<sup>2</sup> 長軸：63km 貯水量：275億m<sup>3</sup>
- 琵琶湖・淀川の流域人口：1,210万人（平成22年度）
- 淀川 幹川流路延長：75km
- 琵琶湖・淀川の給水区域人口：1,540万人（平成22年度）



・地下鉄谷町線「天満橋」駅 番出口  
 ・京阪電鉄「天満橋」駅 東出口



BYQキャッチフレーズ「飲める水 遊べる水辺 次世代に」\*

公益財団法人  
**琵琶湖・淀川水質保全機構**

Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-2-15 大手前センタービル 4F

TEL (06) 6920-3035 (代表) FAX (06) 6920-3036

ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

\*) 遊び泳ぐのに適した河川や湖にしていけるための「BYQキャッチフレーズ」を平成21年度に募集し、「飲める水 遊べる水辺 次世代に」に決定しました。今後、このキャッチフレーズを用いて、遊び泳げる水辺の創出に向けて事業を行なっていきます。

平成25年4月

表紙写真：琵琶湖空撮（滋賀県提供）